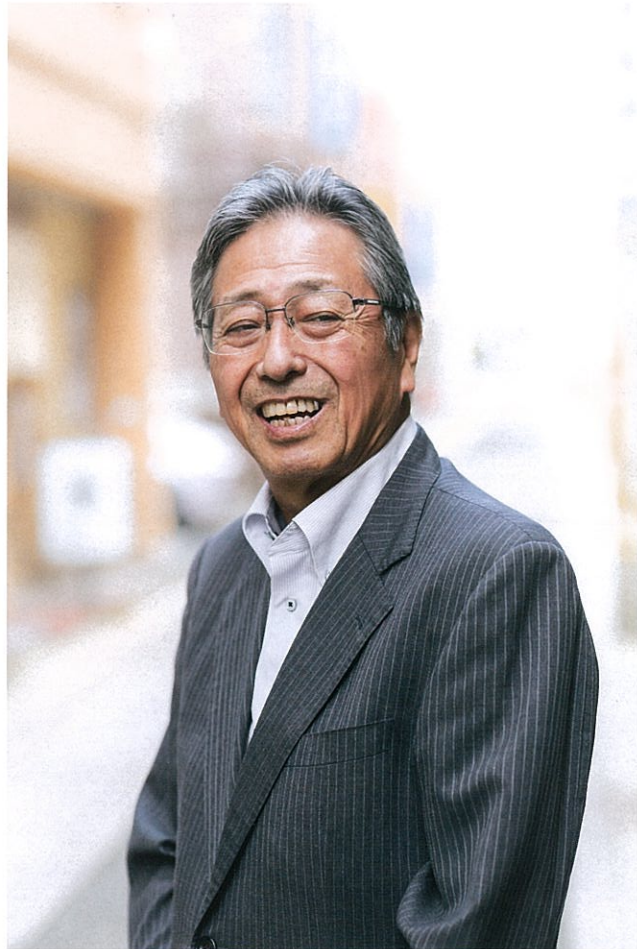




七代目名誉館長紹介

水の駅「ビュー福島潟」名誉館長に新大名誉教授の大熊孝氏が就任しました



撮影:中村脩

プロフィール

大熊 孝(おおくま たかし) 専門・河川工学、土木史

昭和 17 年 8 月 台北市生れ。

昭和 49 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科
土木工学専攻博士課程修了

昭和 60 年 7 月 新潟大学工学部教授

平成 20 年 4 月 新潟大学名誉教授

同年 新潟日報文化賞受賞

平成 26 年 4 月 新潟市潟環境研究所所長

NPO 法人新潟水辺の会代表などを務める。著書に「技術にも自治がある－治水技術の伝統と近代－」(農文協、2004)、「川がつくった川・人がつくった川」(ポプラ社、1995)、「洪水と治水の河川史」(平凡社、1988/文庫本化 2007)、「利根川治水の変遷と水害」(東大出版会、1981) など多数。新潟市西区在住。

名誉館長について

ビュー福島潟の名誉館長制度は、平成 9 年に水の駅「ビュー福島潟」がオープンする際、福島潟を全国に PR し、自然文化に対する市民への普及・啓発を図るため“歩く宣伝塔”を目指して設けられた制度です。平成 27 年度からの新名誉館長は「自然保護や環境保全に造詣が深い人」「市民と一緒に活動してくれる人」「幅広い年代に受け入れられる人」「なるべく頻繁に、気軽に来館してくれる人」として、大熊孝さんに就任をお願いしました。福島潟の未来に向けて名誉館長共々、地域・市民と歩んでいきたいと考えております。(水の駅「ビュー福島潟」福島潟みらい連合 館長 小山芳寛)

ビュー福島潟名誉館長 第7代目に就任して

第 7 代目名誉館長に就任させていただき、大変光栄です。今までの名誉館長は全国的に著名な方々ばかりでしたが、私は河川工学・土木史を専門とする理系の人間で、一般に知られた者ではありません。

福島潟に訪れる人々は年間約 30 万人と言われており、全国に PR する段階から新たに質を高める時期に差し掛かったと言われてしています。そういう認識のもと、私のような者が名誉館長に任命されたものと考えております。

福島潟の恵みの豊かさは「そうらねえ、昔は舟一艘あれば生きていった」と証言されています。この福島潟の価値や魅力を、地形や地質を踏まえながら歴史的に明らかにし、潟と人とのより良い関係を再構築したいと考えています。

(大熊 孝)

歴代名誉館長

- 初代 (平成 9 ~ 11 年) 三枝 成彰 (作曲家)
- 2 代目 (平成 12 ~ 14 年) 竹内 敏信 (写真家)
- 3 代目 (平成 15 ~ 17 年) 片岡 鶴太郎 (画家・タレント)
- 4 代目 (平成 18 ~ 20 年) 加藤 登紀子 (歌手・一期目)
- 5 代目 (平成 21 ~ 23 年) 椎名 誠 (作家)
- 6 代目 (平成 24 ~ 26 年) 加藤 登紀子 (歌手・二期目)
- 7 代目 (平成 27 ~ 28 年) 大熊 孝 (工学博士)

今後の名誉館長イベント

◆平成 27 年 5 月 24 日(日)

名誉館長と歩こう! 福島潟一周ウォーク

一周後のお話と交流会も是非ご参加を! おにぎりもどうぞ。